

標準型ラジオニクス装置について

Mind Craft 2015

標準型ラジオニクス装置は、内部はアメリカ型の回路を使用しています。
外部の黒い端子は入力、赤い端子は出力です。
付属のケーブル、金属板は測定器にのらないものを使う場合に使ってください。

スティックパッド

ラジオニクス装置はとにかくスティックパッドの反応に習熟することです。しばしば手の感触では認識がないにもかかわらず、手がしっかり反応していることがあります。自分の手の動きを観察しましょう。また、指先が湿りすぎている場合は、タルカムパウダーなどを少し塗ってすべりをよくして使います。サイトにも書いていますが、21世紀になって多くの人が使えるようになってきています。少しだけガマンして練習しましょう。サイトのSE-5の入門ビデオはスティックパッドについては参考になります。

最初に

コイル部分にウィットネスをいれ、測定をします。この時、ウィットネスを回転させ地磁気の影響を受けにくい方向を見つける、いわゆるクリティカルローテーションポイント(CRP)は行ったほうがよいかもしれません。同様に、測定する自身の向く方角も大事なことがあります。一般的に南方を向いたほうがよいと言われますが、周囲の環境によりずれますから、これも自分で測定しやすい方向をみつけるとよいかもしれません。こういう方向よりも測定する場所のほうが大事だという話もあります。個人によるので、自分で確認するしかありません。いずれもスティックパッドで反応を見ます。

レートブック

しばしばレートブックを気にする人がいます。レートブックにはたとえば、ガンは50とあります。じゃあ、自分が測定をして出た数字が50だったらガンかというとなんともなりません。レートブックは特定の団体で同じ見解をもつ人の

間での約束事のようなもので、そこに属していない個人が測定してもレートブックどおりにはなりません。このあたりが、本を読んで理屈だけを言う人と実際の経験との違いです。

最新のラジオニクス装置の使い方

最新のラジオニクス理論ではレートの数字の意味そのものより、数字は装置の共振状態を示していると考えます。

サイトには伝統的な方法しか書いてありませんが、SE-5などのラジオニクス装置では次のようにポテンシーダイヤルを重視します。

コイル部分にウィットネスをいれ、なにかを測定すると決めます。

左からダイヤルを操作し、スティックパッドが引っかかるところでダイヤルを確定します。

この繰り返しでレートを出します。

例えば、3-8-5-2-5 だったとします。これを測定している時、操作する人はなにかを知りたかったはずで、例えば「この人の病気はなんだろうか？」と。

病名がなんであるかよりも、このレートで装置が知りたいことについて共振しています。ラジオニクス装置はこのように「なんであるか」よりも波動の状態を抽出するものです。

次にこの病気を打ち消したいとするならば、スティックパッド横のダイヤルはポテンシーを示しますから、これをゼロとすべきです。逆に強化したいのであれば、100にするべきです。

それでは特定の人になにかになりたい、という場合はどうするのでしょうか？ウィットネスにその人の写真、髪の毛、ツメなどを入れ、「なりたい」の程度を測定するつもりでレートを出します。次に「なりたい状態」を紙になど書いてウィットネスにいれます。ポテンシーを100にセットします。

使用期間

どれくらいの間、装置を動作させるかはどれかのダイヤルを回転させながら時間で決めてもよいのですが、直感でおよその時間を決めてもOKです。

以上、